参考文献一覧

日本語文献

新川明「船越義彰試論―その私小説的態度と性格について―」『琉大文学』第 6 号（琉球大学学芸部、1954 年）。

―――「新しい文学芸術の課題について」『緑丘（十周年記念号）』第 3 号（コザ高校文芸クラブ、1955 年）。

―――「沖縄における民族文化の伝統と継承（座談会）」『琉大文学』第 8 号（琉球大学学芸部 1955 年）。

―――「戦後沖縄文学批判ノート―新世代の希むもの―」『琉大文学』第 7 号（琉球大学文芸部、1954 年）。

―――「短歌に対する疑問―九年母短歌会の人達に―（1）～（7）」『琉球新報』（1954 年 9 月 27 日～10 月 3 日）。

―――「美術時評　人間の居ない場所（喜舎場順と共著）」『琉大文学』第 9 号（琉球大学学芸部、1955 年）。

―――「スナップ」『琉大文学』第 8 号（琉球大学文芸部、1955 年）。

―――「批評・その位置と態度われわれ内部の問題（3）」『琉大文学』第 10 号（琉球大学学芸部、1955 年）。

―――「僕たちの批評態度について（承前）」『琉大文学』第 11 号（琉球大学学芸部、1956 年）。

―――「沖縄の文学事情」『新日本文学』7 月号（新日本文学会、1956 年）。

―――「沖縄の闘いの表情」『新日本文学』11 月号（新日本文学会、1956 年）。

―――「文学者の主体的出発ということ―大城立裕氏らの批判に応える―」『沖縄文学』第 1 巻第 2 号（沖縄文学の会、1957 年）。

―――「沖縄の思想的課題とは何か」沖縄研究会編『物呉ゆすど･･･沖縄解放への視角』（田畑書房、1970 年）。

―――「非国民の思想と論理」谷川健一編『沖縄の思想』（木耳社、1970 年）。

―――「＜憲法幻想＞の破砕」『現代の眼』11 月号（現代評論社、1970 年）。

―――「内なる『辺境』から」『日本読書新聞』（1970 年 1 月 1 日）。

―――「＜復帰＞思想の虚妄」『現代の眼』1 月号（現代評論社、1971 年）。

―――「『差別告白』から『反逆』の持続へ」『朝日ジャーナル』7 月 2 日号（朝日新聞社、1971 年）。

―――「幻想としての＜日本＞」『中央公論』9 月号（中央公論社、1971 年）。

―――『新南島風土記』（大和書房、1978 年）。

―――「安谷屋正義の周辺―私的回想による人と作品の覚え書―」『安谷屋正義回顧展』（安谷屋正義回顧展実行委員会、1979 年）。

―――『反国家の兇区』（社会評論社、1996 年）。

———「沖縄独立の夢を語ろう（対談：池澤夏樹）」『世界』8 月号（岩波書店、1996 年）。
———『沖縄・統合と反逆』（筑摩書房、2000 年）。
———「わたしも独立論者だ―『反復帰・反国家』と『独立』のあいだで―（インタビュー）」『うるまネシア』第 5 号（21 世紀同人会、2003 年）。
———「9 条と沖縄米軍基地は不可分の関係にある」『世界』6 月号（岩波書店、2005 年）。
———「沖縄現代史と＜反復帰論＞（インタビュー）」『InterCommunication』第 47 号（NTT 出版、2004 年）。
———「島尾敏雄の若干の回想」奄美・島尾敏雄研究会編『追悼　島尾敏雄』（南方新社、2005 年）。
———「反復帰論と同化批判―植民地下の精神革命として（座談会）」『季刊前夜』第 9 号（NPO 前夜、2006 年）。
新崎盛暉『戦後沖縄史』（日本評論社、1976 年）。
———『沖縄現代史』（岩波書店、1996 年）。
———『未完の沖縄闘争　沖縄同時代史　別巻 1962～1972』（凱風社、2005 年）。
岩崎稔ほか編『戦後思想の名著 50』（平凡社、2006 年）。
石原昌家「『援護法』によって捏造された『沖縄戦認識』:『靖国思想』が凝縮した『援護法用語の集団自決』」『沖縄国際大学社会文化研究』第 10 巻第 1 号（沖縄国際大学、2007 年）。
上地聡子「日本『復帰』署名運動の担い手―行政機構と沖縄青年連合会―」『沖縄文化』第 40 巻 2 号（沖縄文化協会、2006 年）。
———「『復帰』における憲法の不在」『琉球・沖縄研究』第 3 号（早稲田大学琉球・沖縄研究所、2010 年）。
上野千鶴子『生き延びるための思想』（岩波書店、2006 年）。
大江健三郎『沖縄ノート』（岩波書店、1970 年）。
大沢正道『反国家と自由の思想』（川島書店、1970 年）。
大田昌秀「沖縄反復帰の思想的原点―復帰にかける沖縄の心―」『月刊社会党』12 月号（日本社会党機関紙局、1971 年）。
———『検証　昭和の沖縄』（那覇出版社、1990 年）。
岡本恵徳「唐獅子」『沖縄タイムス』（1969 年 11 月 8 日）。
———「水平軸の発想―沖縄の共同体意識について―」谷川健一編『沖縄の思想』（木耳社、1970 年）。
———「『沖縄に生きる』思想―『渡嘉敷島集団自決』の意味するもの―」『労働運動研究』第 9 号（労働運動研究所、1970 年）。
———「沖縄“施政権返還”その後」『思想の科学』第 15 号（思想の科学社、1973 年）。
———『「ヤポネシア論」の輪郭』（沖縄タイムス社、1990 年）。
沖縄県総務部広報課『沖縄県行政記録第 1 巻～第 4 巻』（1980 年）。

沖縄県祖国復帰闘争史編纂委員会編『沖縄県祖国復帰闘争史資料編』（沖縄時事出版、1982年）。
沖縄人の沖縄を作る会「沖縄は沖縄人のものだ！われわれは日本復帰を急がない」『沖縄タイムス』（1969年10月10日）。
奥平一『戦後沖縄教育運動史―復帰運動における沖縄教職員会の光と影―』（ボーダーインク、2010年）。
小熊英二『＜日本人＞の境界』（新曜社、1998年）。
―――『＜民主＞と＜愛国＞』（新曜社、2002年）。
カール・シュミット（田中浩・原田武雄訳）『政治的なものの概念』（未来社、1970年）。
革命思想研究会「新左翼諸潮流の理論―現代トロツキズムとアナーキズム―」『月刊社会党』第149号（日本社会党機関誌局、1969年）。
鹿野政直『戦後沖縄の思想像』（朝日新聞社、1987年）。
我部聖「『日本文学』の編成と抵抗―『琉大文学』における国民文学論―」『言語情報科学』第7号（「言語情報科学」編集委員会、2007年）。
我部政明『沖縄返還とは何だったのか―日米戦後交渉史の中で―』（日本放送出版協会、2000年）。
―――『日米関係と安全保障』（吉川弘文館、2007年）。
我部政男『近代日本と沖縄』（三一書房、1981年）。
川満信一「沖縄における天皇制思想」谷川健一編『沖縄の思想』（木耳社、1970年）。
―――「ミクロ言語帯からの発想」『現代の眼』1月号（現代評論社、1971年）。
―――「民衆論」『中央公論』6月号（中央公論社、1972年）。
―――「共同体論（上）」『新沖縄文学』第32号（沖縄タイムス社、1976年）。
―――「共同体論（中）」『新沖縄文学』第33号（沖縄タイムス社、1976年）。
―――「共同体論（下）」『新沖縄文学』第34号（沖縄タイムス社、1977年）。
―――「琉球共和社会憲法C私（試）案」『新沖縄文学』第48号（沖縄タイムス社、1981年）。
北村毅『死者たちの戦後誌』（御茶の水書房、2009年）。
河野康子『返還をめぐる政治と外交―日米関係史の文脈―』（東京大学出版会、1994年）。
―――「沖縄返還交渉と安全保障政策―施政権返還をめぐる最近の研究動向―」『レヴァイアサン』46号（木鐸社、2010年）。
小国喜弘『戦後教育のなかの〈国民〉―乱反射するナショナリズム―』（吉川弘文館、2007年）。
呉屋美奈子「戦後沖縄における『政治と文学』―『琉大文学』と大城立裕の文学論争―」『図書館情報メディア研究』第4巻第1号（「図書館情報メディア研究」編集委員会、2006年）。
桜澤誠「戦後沖縄における『68年体制』の成立―復帰運動における沖縄教職員会の動向を

中心に―」『立命館大学人文科学研究科紀要』第 82 号（立命館大学人文科学研究所、2003 年）。
―――「戦後初期の沖縄における復帰論／独立論の再検討―講和交渉期の帰属論争の思想的内実―」『日本思想史学』第 39 号（日本思想史学会、2007 年）。
―――『沖縄の復帰運動と保革対立―沖縄地域社会の変容―』（有志舎、2012 年）。
―――「1950 年代沖縄における政治勢力の再検討」『年報近代史研究』第 4 号（近代史研究会、2012 年）。
佐々木基一ほか「戦後における批評の問題（座談会）」『近代文学』1 月号（近代文学社 1955 年）。
佐藤榮作『佐藤榮作日記　第 3 巻』（朝日新聞社、1998 年）。
佐藤成基「ナショナリズムの理論史」大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』（有斐閣アルマ、2009 年）。
塩川伸明『民族とネイション―ナショナリズムという難問―』（岩波書店、2008 年）。
塩田純・佐藤克利（ＮＨＫ取材班）「沖縄返還・日米の密約」『ＮＨＫスペシャル戦後 50 年その時日本は』（日本放送出版協会、1996 年）。
篠藤光行「アナキズム・アナルコ・サンジカリズム」『唯物史観』第 8 号（河出書房新社、1970 年）。
島尾敏雄「ヤポネシアの根っこ」『世界教養全集第 21 巻月報』第 15 号（平凡社、1961 年）。
―――「南西の列島の事など」『島尾敏雄全集　第 16 巻』（晶文社　1982 年）。
―――「私にとって沖縄とはなにか」『島尾敏雄全集　第 17 巻』（晶文社、1983 年）。
島尾敏雄ほか「幻の座談会　琉球弧とヤポネシア」『新沖縄文学』第 71 号（沖縄タイムス社、1987 年）。
島袋邦「共和党」『沖縄大百科事典』（沖縄タイムス社、1985 年）。
―――「社会党」『沖縄大百科事典』（沖縄タイムス社、1985 年）。
―――「琉球独立党」『沖縄大百科事典』（沖縄タイムス社、1985 年）。
白川俊介「リベラル・ナショナリズム論の国際秩序構想」『政治研究』第 56 号（九州大学政治研究会、2009 年）。
―――『ナショナリズムの力―多文化共生世界の構想―』（勁草書房、2012 年）。
新城郁夫「戦後沖縄文学覚え書き―『琉大文学』という試み―」『「戦後」という制度―戦後社会の起源を求めて』（インパクト出版、2002 年）。
進藤榮一「分割された領土」『世界』4 月号（岩波書店、1979 年）。
住谷悦治ほか編『戦後日本の思想対立』（芳賀書店、1967 年）。
杉田敦『権力の系譜学』（岩波書店、1992 年）。
施光恒「リベラル・ナショナリズム論の意義と展望―多様なリベラル・デモクラシーの花開く世界を目指して―」萩野能久編『ポスト・ウォー・シティズンシップの構想力』（慶応義塾大学出版会、2005 年）。

———「リベラル・デモクラシーとナショナリティ」施光恒ほか編『ナショナリズムの政治学―規範理論への誘い―』（ナカニシヤ出版、2009 年）。
瀬長亀次郎「退社声明書（1949 年 8 月 5 日）」『縮刷うるま新報』第 2 巻（不二出版、1999 年）。
———「日本人民と結合せよ」『世論週報　特集号　日本復帰論』（沖縄出版社、1951 年）。
———『祖国への道』（日本アジア・アフリカ連帯委員会、1966 年）。
———「天皇の戦争責任、戦後責任」『文化評論』第 320 号（新日本出版社、1987 年）。
———『瀬長亀次郎回想録』（新日本出版社、1991 年）。
———『不屈　瀬長亀次郎日記　第 1 部獄中』（琉球新報社、2007 年）。
———『不屈　瀬長亀次郎日記　第 2 部那覇市長』（琉球新報社、2009 年）。
———『不屈　瀬長亀次郎日記　第 3 部日本復帰への道』（琉球新報社、2011 年）。
平良好利「戦後沖縄と米軍基地―沖縄基地をめぐる沖米日関係―（1~7）」『法学志林』第 106 巻第 2 号～108 巻第 4 号（法政大学法学志林協会、2008～2011 年）。
高橋順子「『沖縄問題』言説の変容からみた『復帰』の構造―沖縄教職員会・組合の教育研究集会の事例から―」『琉球・沖縄研究』第 2 号（早稲田大学琉球・沖縄研究所、2008 年）。
———『沖縄〈復帰〉の構造―ナショナル・アイデンティティの編成過程―』（新宿書房、2011 年）。
多賀秀敏「国際社会における社会単位の深層」多賀秀敏編『国際社会の変容と行為体』（成文堂、1999 年）。
多賀秀敏編『グローバル時代のマルチ・レベル・ガバナンス―EU と東アジアのサブリージョン比較―』（平成 21 年 23 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書、2012 年）。
高良勉「解題」沖縄文学全集編集委員会編『沖縄文学全集』第 18 巻評論Ⅱ（国書刊行会、1992 年）。
多田治「再考・反復帰と独立」『琉球新報』（2007 年 1 月 29 日）。
———「『ウチナー／ヤマト』をめぐる現実の複雑さと二重性」『環』第 30 号（藤原書店、2007 年）。
田仲康博「他者の眼差し」『ユリイカ』第 30 巻第 10 号（青土社、1998 年）。
田中優子「反復帰論が問い続けるもの―国家に拠らない、真の自立のために―」『週刊金曜日』第 19 巻第 20 号（金曜日、2011 年）。
谷川健一「＜ヤポネシア＞とは何か」島尾敏雄編『ヤポネシア序説』（創樹社、1977 年）。
———「鎮魂と贖罪」『文学界』1 月号（文藝春秋、1987 年）。
テッサ・モーリス＝鈴木著、大川正彦訳『辺境から眺める―アイヌが経験する近代―』（みすず書房、2000 年）。
当間重剛『当間重剛回想録』（当間重剛回想録刊行会、1969 年）。

徳田匡「『反復帰・反国家』の思想を読みなおす」藤澤健一編『沖縄・問いを立てる 6　反復帰と反国家』（社会評論社、2008 年）。
戸邉秀明「『戦後』沖縄における復帰運動の出発―教員層からみる戦場後／占領下の社会と運動―」『日本史研究』第 547 号（日本史研究会、2008 年）。
鳥山淳「戦後初期沖縄における自治の希求と屈折」『戦後日本の民衆意識と知識人　年報・日本現代史』第 8 号（現代史料出版、2002 年）。
―――「1950 年代初頭の沖縄における米軍基地建設のインパクト」『沖縄大学地域研究所所報』第 31 号（沖縄大学、2004 年）。
―――「破綻する＜現実主義＞―「島ぐるみ闘争」へと転化する一つの潮流―」『沖縄文化研究』第 30 号（法政大学沖縄文化研究所、2004 年）。
―――「占領と現実主義」鳥山淳編『沖縄・問いを立てる 5　イモとハダシ』（社会評論社、2009 年）。
―――「1950 年代の米軍基地問題をめぐって」勝方＝稲福恵子・前嵩西一馬編『沖縄学入門』（昭和堂、2010 年）。
内藤直由「国民文学論の理路と隘路―天皇制をめぐる言葉―」『立命館文學』第 600 号（立命館大学文学部人文学会、2007 年）。
仲里功「ふるえる三角形　いまに吹き返す＜反復帰＞の風」『世界』12 月号（岩波書店、2006 年）。
―――「アジアという目線」読売新聞西部本社文化部編『対論「沖縄」問題とはなにか』（弦書房、2007 年）。
―――『オキナワ、イメージの縁（エッジ）』（未来社、2007 年）。
中島琢磨「初期佐藤政権における沖縄返還問題」『法政研究』第 73 巻 3 号（九州大学法政学会、2006 年）。
―――「佐藤政権期の日米安全保障関係―沖縄返還と「自由世界」における日本の責任分担問題―」『国際政治』第 151 号（日本国際政治学会、2008 年）。
―――「1967 年 11 月の佐藤訪米と沖縄返還をめぐる日米交渉」日本政治学会編『年報政治学 2009 - I 民主政治と政治制度』（木鐸社、2009 年）。
―――「1968 年の沖縄返還問題の展開」『九大法学』第 101 号（九大法学会、2010 年）。
―――「沖縄施政権返還交渉の開始」『九大法学』第 102 号（九大法学会、2011 年）。
中野好男ほか編『戦後資料　沖縄』（日本評論社、1969 年）。
西川長夫『国民国家論の射程』（柏書房、1998 年）。
―――『＜新＞植民地主義論』（平凡社、2006 年）。
西里喜行「沖縄における『反復帰論』とその周辺」『民主文学』第 70 号（日本民主主義文学会、1971 年）。
西原町立図書館編『新川明文庫目録』（西原町立図書館、2006 年）。
西原森茂「政治指導者としての屋良朝苗」『沖縄法学』第 30 号（沖縄国際大学法学会、2001

年)。
———「屋良政権の政策考」『沖縄法学』第 32 号（沖縄国際大学法学会、2003 年)。
西銘順治「独立論をばくす」『世論週報　特集号　日本復帰論』(沖縄出版社、1951 年)。
———『西銘順治日記　戦後政治を生きて』(琉球新報社、1998 年)。
日本国際政治学会『国際政治 52　沖縄返還交渉の政治過程』(有斐閣、1975 年)。
日本共産党中央委員会出版局「沖縄問題とイデオロギー闘争」『前衛』第 326 号（日本共産党出版部、1971 年)。
日本教職員組合『教育評論』第 2 巻第 3 号（1953 年)。
———『日教組教育新聞』(労働旬報社、1969 年)。
日本現代文学史研究会『日本の現代文学史』(三一書房、1954 年)。
納富香織「仲吉良光論―沖縄近現代史における『復帰男』の再検討―」『史論』第 57 号、(東京女子大学、2004 年)。
花田俊典「ヤポネシアのはじまり―島尾敏雄の日本地図―」『日本文学』第 26 巻第 11 号 (日本文学協会、1997 年)。
浜川仁「脱『沖縄文学』論―50 年代中期『琉大文学』をめぐって―」『うらそえ文芸』(「うらそえ文芸」編集委員会、2006 年)。
———「イデオロギーとしてのヤポネシア論―試論―」『沖縄キリスト教学院大学論集』第４号（沖縄キリスト教学院大学、2008 年)。
原百年『ナショナリズム論―社会構成主義的再考―』(有信堂高文社、2011 年)。
比嘉一雄「日米琉諮問委員会」『沖縄大百科事典』(沖縄タイムス社、1985 年)。
藤澤健一『沖縄／教育権力の現代史』(社会評論社、20005 年)
藤澤健一編『反復帰と反国家』(社会評論社、2008 年)。
藤澤健一ほか編『沖縄に向き合う・眼差しと方法』(社会評論社、2008 年)。
前利潔「＜無国籍＞地帯、奄美大島」藤澤健一編『反復帰と反国家』(社会評論社、2008 年)。
牧港篤三「田井等市」『沖縄大百科事典』(沖縄タイムス社、1985 年)。
三木健『沖縄返還交渉』(日本経済評論社、2000 年)。
宮里政玄『アメリカの対外政策決定過程』(三一書房、1981 年)。
———『日米関係と沖縄―1945 - 1972―』(岩波書店、2000 年)。
目取真俊『沖縄「戦後」ゼロ年』(NHK 出版、2005 年)。
森宣雄『地のなかの革命―沖縄戦後史における存在の解放―』(現代企画室、2010 年)。
森川裕二『東アジア地域形成の新たな政治力学』(国際書院、2012 年)。
森本眞一郎「島尾敏雄の帝国と周辺―ヤポネシアの琉球弧から―」『社会文学』第 21 号（日本社会文学会、2005 年)。
文部省中学校課・高等学校課編『中等教育資料』第 4 号（1953 年)。
屋嘉比収「自らの内側を穿つ思想―新川明の反復帰論―」『前夜』第 8 号（NPO 前夜、2006

年)。
———「『新川明文庫目録』を読む」『沖縄タイムス』(2007 年 4 月 18 日)。
山里永吉『壷中天地―裏からのぞいた琉球史―』(光有社、1963 年)。
———『沖縄人の沖縄―日本は祖国に非ず―』(沖縄時報社、1969 年)。
———『沖縄人の沖縄―食喫ゆすど吾ら主―』(第一法規出版、1971 年)。
山里勝己「『ミード報告』を読む／第二次琉大事件から 50 年(1～2)」『琉球新報』(2006 年 9 月 27 日、10 月 11 日)。
山口覚「複雑化する『結びあい』―戦後兵庫県における沖縄出身者の都市生活―」『地理科学』第 57 巻第 1 号(地理科学学会、2002 年)。
———「激動の時を生きる―戦前・戦後における沖縄出身者と同郷者集団―」『人文論究』第 53 巻第 1 号(関西学院大学、2003 年)。
山梨奈保子「国際関係における規範概念の再検討」『法学政治学論究』第 55 号(慶應大学大学院法学研究科内『法学政治学論究』刊行会、2002 年)。
屋良朝苗「第 3 回全島校長会挨拶」文教局研究調査課編『琉球史料　第 3 集』(琉球政府文教局、1958 年)。
———『沖縄教職員会 16 年―祖国復帰・日本国民としての教育をめざして―』(労働旬報社、1968 年)。
———「革新施政と日米関係(座談会)」『沖縄タイムス』(1968 年 12 月 13 日)。
———『沖縄の夜明け―いのちを守る闘い―』(あゆみ出版社、1969 年)。
———『沖縄はだまっていられない―遥かなる本土への直訴状―』(エール出版社、1969 年)。
———「佐藤総理大臣に訴える」(法政大学沖縄文化研究所所蔵、1969 年 11 月 11 日)。
———『屋良朝苗回顧録』(朝日新聞社、1977 年)。
———「私が台湾で学んだこと―台南第二中学校での思い出―」『新沖縄文学』第 60 号(沖縄タイムス社、1984 年)。
———『激動八年　屋良朝苗回想録』(沖縄タイムス社、1985 年)。
———「私は教組で日の丸掲揚を主張した」『諸君』12 月号(文藝春秋社、1987 年)。
吉田嗣延『小さな戦いの日々』(文教商事、1976 年)。
吉本隆明「異族の論理」『吉本隆明全著作集(続)第 10 巻』(勁草書房、1978 年)。
琉球政府文教局研究調査課編『琉球史料　第 3 集』』(琉球政府文教局、1958 年)。
林泉忠『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティックス』(明石書店、2005 年)。
———「アイデンティティの十字路―『祖国復帰』と反復帰のイデオロギー的性格を中心に―」『政策科学・国際関係論集』第 7 号(琉球大学法文学部、2005 年)。
若泉敬『他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス』(文藝春秋、1994 年)。

英語文献

Anderson, Benedict. *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism*. 3rd edition. London: Verso Books. 2006. （白石隆ほか訳『定本想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行―』書籍工房早山、2007 年）。

----------. *Under three flags: Anarchism and Anti-colonial Imagination.* New York and London: Verso books. 2006.

Carr, Edward H. *Nationalism and After*. London: Macmillan. 1945.（大窪愿二訳『ナショナリズムの発展』みすず書房、初版 1952 年、新版 2006 年）。

Deutsch, Karl W. *Nationalism and its Alternatives*. New York: Alfred A. Knopf. 1969.（勝村茂ほか訳『ナショナリズムとその将来』勁草書房、1975 年）。

Gellner, Ernest. *Nations and Nationalism*. Oxford: Blackwell Publishers. 1983. （加藤節ほか訳『民族とナショナリズム』岩波書店、2000 年）。

Hardt, Michael, and Antonio Negri. *Multitude: War and Democracy in the Age of Empire.* New York: Penguin Press. 2004.

Hobsbawm, Eric E. and Terence Ranger (eds.). *The Invention of Tradition*. Cambridge: Cambridge University Press. 1983. （前川啓治ほか訳『創られた伝統』紀伊國屋書店、1992 年）。

Hobsbawm, Eric E. *Nations and Nationalism since 1780*. Cambridge: Cambridge University Press. 1990.（浜林正夫ほか訳『ナショナリズムの歴史と現在』（大月書店、2001 年）。

Jepperson, Ronald L. Alexander Wendt, and Peter J. Katzenstein. “Norms, Identity, and Culture in National Security.” In: Katzenstein, Peter J. (ed.). *The Culture of National Security: Norms and Identity in World Politics*. New York: Columbia University Press. 1996.

Miller, David. *On Nationality*. Oxford: Oxford University Press. 1995.（富沢克ほか訳『ナショナリティについて』風行社、2007 年）。

Molasky, Michael. S. “Arakawa Akira: The thought and poetry of an iconoclast.” Hook, Glenn. D. (eds). In: *Japan and Okinawa: Structure and subjectivity*. London and New York: Curzon Press. 2003.

Özkirimli, Umut. *Theories of Nationalism: A Critical Introduction.* 2nd edition. NewYork: Palgrave Macmillan. 2010.

Smith, Anthony D. *The Ethnic Origins of Nations.* Oxford: Blackwell publishers. 1986.（巣山靖司ほか訳『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会、1999 年）。

Tamir, Yael. *Liberal Nationalism*. Princeton: Princeton University Press. 1993.（押村高ほか訳『リベラルなナショナリズムとは』（2006 年、夏目書房）。

石井修・我部政明・宮里政玄監修『アメリカ合衆国対日政策文書集成 XII　日米外交問題

1968 年』第 10 巻（柏書房、2003 年）。

1 次資料

『屋良朝苗日誌』（沖縄県公文書館）。
『琉球列島米国民政府（USCAR）渉外局文書』（沖縄県公文書館）。
『オフラハーティ文書』（沖縄県公文書館）。
『琉球政府文書』（沖縄県公文書館）。
『平成 22 年度外交記録公開（沖縄返還交渉、日米安全保障条約改定交渉）』（外務省外交史料館）。

新聞

沖縄地元紙
『沖縄タイムス』、『琉球新報』。
沖縄県人紙
『球陽新聞』。
全国紙
『朝日新聞』、『読売新聞』。
地方紙
『東奥日報』、『岩手日報』、『河北新報』、『秋田魁新報』、『山形新聞』、『福島民報』、『上毛新聞』、『下野新聞』、『埼玉新聞』、『千葉新聞』、『新潟日報』、『北日本新聞』、『北陸新聞』、『北国新聞』、『福井新聞』、『山梨時事新聞』、『作陽新聞』、『信濃毎日新聞』、『岐阜タイムズ』、『中部日本新聞』、『伊勢新聞』、『滋賀新聞』、『神戸新聞』、『大和タイムズ』、『和歌山新聞』、『日本海新聞』、『山陰新報』、『山陽新聞』、『中国新聞』、『徳島新聞』、『徳島民報』、『高知新聞』、『熊本日日新聞』。

ウェブサイト

『沖縄県公文書館』
<http://www.archives.pref.okinawa.jp >
『沖縄県知事公室基地対策課』
<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=14>
『国会議事録検索システム』
<http://kokkai.ndl.go.jp>
『防衛省』
<http://www.mod.go.jp/index.html>
『防衛省情報検索サービス』
<http://www.clearing.mod.go.jp>